

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

疾患登録・疫学調査研究分科会

「腎臓領域指定難病新規受療患者数：全国アンケート調査」

研究分担者

旭 浩一 岩手医科大学医学部 内科学講座 腎・高血圧内科分野 教授

研究協力者

渡辺 毅 独立行政法人労働者健康福祉機構 福島労災病院 名誉院長・顧問
井関邦敏 名嘉村クリニック 臨床研究支援センター センター長

研究要旨

2020年10月より日本腎臓学会指定研修施設（日腎研修施設）教育責任者の所属する全診療科（704科）を対象にアンケート調査を実施し、各診療科における腎臓領域指定難病（指定難病）の2019年度分の新規受療患者数ならびに腎生検年間実施数等を調査し、稀少疾患の把握、日腎研修施設全体における対象疾患年間新規受療患者数ならびに腎生検年間実施数の推定を行った。また、本年度の追加項目として非ネフローゼの一次性MPGNとMPGNのうちのC3腎症の数を調査した。

264診療科（内科245科、小児科11科、泌尿器科4科、その他4科）から回答を得た。アンケート回答診療科における2019年度の指定難病新規受療患者は、IgA腎症（IgAN）3005例、急速進行性糸球体腎炎（RPGN）1210例（うちMPO-ANCA型60.7%、PR3-ANCA型4.0%（48例）、抗GBM抗体型5.5%（66例））、一次性ネフローゼ症候群（NS）2730例（うち微小変化型30.9%、膜性腎症29.4%、巣状分節性糸球体硬化症9.2%、膜性増殖性糸球体腎炎（MPGN）4.5%（123例））、多発性嚢胞腎（PKD）1209例、紫斑病性腎炎423例が把握され、腎生検施行数は10771例であった。非NSの一次性MPGNは71例で一次性MPGN（NS+非NS）（194例）のうちC3腎症は32例（うちNS14例、非NS18例）が把握された。

□対象全診療科に対するアンケート回収率（37.5%）、全研修施設総病床数に対する回答施設の病床数カバー率（42.3%）より2019年度の日腎研修施設全体における各疾患の新規受療患者はそれぞれIgAN約7100-8000例、RPGN約2900-3200例、一次性NS約6500-7300例、PKD約2900-3200例、紫斑病性腎炎約1000-1100例、一次性MPGN（NS+非NS）約500例、腎生検施行数は約25000-29000例と推定された。腎臓病総合レジストリー（J-RBR/J-KDR）への参加登録済の89診療科における、各疾患の病因・病型分類の構成比は日腎研修施設全体のそれと明らかな乖離はなかった。

A. 研究目的

腎臓領域指定難病（IgA腎症（IgAN）、急速進行性糸球体腎炎（RPGN）、一次性ネフローゼ症候群（NS）、多発性嚢胞腎（PKD）、紫斑病性腎炎（HSPN）、一次性膜性増殖性糸球体腎炎（MPGN））の2019年度新規受療患者数ならびに腎生検年間実施数等を調査し、稀少疾患（抗糸球体基底膜（GBM）抗体型RPGN等）の把握、患者登録システム（J-RBR/J-KDR）のvalidity検証の参考データの提供、患者数の推計を行う。

B. 研究方法

2020年10月より日本腎臓学会指定研修施設（日腎研修施設）の教育責任者の属する704診療

科を対象に調査票（図1）を送付し、郵送にて回収した。2021年3月31日までに回答のあった診療科の回答内容を集計した。

調査項目：

A) 施設、診療科に関する項目

A-1. 所属診療科

A-2. 所属医療機関総病床数

B) 2019年度（2019.4.1～2020.3.31）新規受療患者数

B-1) IgA腎症（当該診療科で腎生検により新たに確定診断した例数）

B-2) 急速進行性糸球体腎炎（例数）

B-2-1) うちMPO-ANCA型

B-2-2) うちPR3-ANCA型

- B-2-3) うち抗 GBM 抗体型
- B-3) 一次性ネフローゼ症候群 (例数)
 - B-3-1) うち微小変化型 (MC)
 - B-3-2) うち膜性腎症 (MN)
 - B-3-3) うち巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS)
 - B-3-4) うち膜性増殖性糸球体腎炎 (MPGN)
 - B-3-4-1) うち C3 腎症*
- B-4) 多発性嚢胞腎 (例数)
 - B-4-1) うち常染色体劣性多発性嚢胞腎 (ARPKD)
- B-5) 紫斑病性腎炎 (HSPN) (例数)
- B-6) 非ネフローゼの MPGN (例数)*
 - B-6-1) うち C3 腎症*
- C) 任意回答項目
 - C-1) 腎臓病総合レジストリー (J-RBR/J-KDR) への登録 (未・済)
 - C-2) 2019 年度年間腎生検施行数

*は本年度追加調査項目

C. 研究結果

i) 調査票回収率と回答診療科の内訳 :

アンケート回収率は 37.5% (264 診療科)、回答診療科の内訳は内科 245 科 (92.8%)、小児科 11 科 (4.2%)、泌尿器科 4 科 (1.5%)、その他 4 科 (1.5%) であった。回答診療科の所属施設の合計病床数は 138,635 床で、調査対象とした日腎研修施設 704 診療科の所属施設の総病床数 327,417 床に対する病床カバー率は 42.3% であった。回答診療科のうち、腎臓病総合レジストリー (J-RBR/J-KDR) に参加登録済施設の診療科 (レジストリーへの症例の登録の有無は問わない) は 89 診療科 (33.7%) であった。

ii) 回答診療科における 2019 年度の腎臓領域指定難病の新規受療患者数、年間腎生検施行数 :

回答診療科全体とその内の J-RBR/J-KDR 参加登録済施設の診療科における各疾患の 2019 年度新規受療患者の総数、各疾患の病型別構成比、年間腎生検施行数を表 1 に示す。

抗 GBM 抗体型 RPGN 66 例、PR3-ANCA 型 RPGN 48 例が新たに把握された。MPGN のうち C3 腎症は 32 例把握され、ネフローゼ例が 14 例、非ネフローゼ例が 18 例であった。

iii) 日腎研修施設における 2019 年度の腎臓領域指定難病の新規受療患者数、腎生検施行数の推計 :

日腎研修施設における指定難病の新規受療患者数推計値を過年度同様の方法、すなわち回答

のあった診療科における各疾患の新規受療患者数並びに腎生検施行数をアンケート回収率 (0.375) 並びに日腎研修施設全施設の合計病床数に対する回答施設の病床合計のカバー率 (0.423) で除すことにより算出した。結果を表 2 に示す。

D. 考察

各疾患の病型別構成比には経年的に大きな変動は見られないものの、推計患者数・腎生検実施数は前年比で概ね増加傾向を示していた。日腎研修施設の増加に伴うものか、アンケート回答施設バイアスによるものか検討しつつ、より長期的スパンで観察を継続してゆく必要がある。

J-RBR/J-KDR 参加登録済診療科における対象疾患の病因・病型分類の構成比は本年度調査においても日腎研修施設教育責任者在籍診療科全体のそれと概ね乖離がないものと考えられた。

E. 結論

1. 2019 年度の日腎研修施設における腎臓領域指定難病の新規受療患者数と腎生検施行数はいずれも前年度からのやや増加傾向を示した。
2. 稀少疾患として PR3-ANCA 型 RPGN 48 例、抗 GBM 抗体型 RPGN 66 例、C3 腎症 32 例 (うちネフローゼ 14 例、非ネフローゼ 18 例) が新規に把握された。
3. J-RBR/J-KDR の参加登録済施設の疾患・病型分布は未登録施設を含めた日腎研修施設における分布と乖離はない。

別表にアンケートにご協力いただきました施設診療科を掲げ、深甚なる謝意を表します。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「難治性腎障害に関する調査研究」疫学アンケート調査 回答票

貴医療機関名	ご所属診療科名	代表者ご氏名
所在地（〒）	本アンケート担当者ご氏名：（ ） 連絡先（ ） □電話 □FAX □e-mail	

A. 施設、診療科に関する項目：貴診療科の分類と、貴所属機関の総病床数をお教え下さい。

1. ご所属診療科分類	2. ご所属医療機関の総病床数
<input type="checkbox"/> 1. 内科 <input type="checkbox"/> 2. 小児科 <input type="checkbox"/> 3. 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 4. その他	_____床

B. 令和元年度の新規受療患者数：平成31年4月1日～令和2年3月31日の1年間（令和元年度）に貴診療科で新規に受療した患者の実数をお教え下さい。

1. IgA腎症(※1)	→ _____例	(※1: 貴診療科で腎生検を行い、確定診断をした症例数をお教え下さい。)
2. 急速進行性糸球体腎炎	→ _____例	(→2のうち腎生検施行例 _____例)
2-1 上記2のうち MPO-ANCA型	→ _____例	
2-2 上記2のうち PR3-ANCA型	→ _____例	
2-3 上記2のうち 抗GBM抗体型	→ _____例	
3. 一次性ネフローゼ症候群	→ _____例	(→3のうち腎生検施行例 _____例)
3-1 上記3のうち 微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)	→ _____例	
3-2 上記3のうち 特発性膜性腎症(MN)	→ _____例	
3-3 上記3のうち 一次性異状分節性糸球体硬化症(FSGS)	→ _____例	
3-4 上記3のうち 一次性膜性増殖性糸球体腎炎(MPGN) (C3腎症を含む)	→ _____例	(→3-4のうち C3腎症 _____例)
4. 多発性嚢胞腎	→ _____例	
4-1 上記4のうち ARP-KD (常染色体劣性多発性嚢胞腎)	→ _____例	
5. 紫斑病性腎炎	→ _____例	
6. 非ネフローゼの一次性MPGN (C3腎症を含む)	→ _____例	(→6のうち C3腎症 _____例)

C. その他

腎臓病総合レジストリー (J-RBR/J-KDR) への施設登録はされていますか？ (症例登録の有無は問いません)	□1 済 □2 未
貴診療科の年間腎生検数 (平成31年4月1日～令和2年3月31日) (関連施設で施行された例は除き、貴診療科で施行した例数のみ)	_____例

図1 調査票(アンケート回答票)

表1 2019年度 腎臓領域指定難病 新規受療患者数, 腎生検施行数(2020年度調査)

	日腎研修施設 教育責任者 所属診療科 264科	J-RBR/J-KDR	
		登録済 診療科 89科	未登録 診療科 175科
IgAN	3005	1501	1,504
RPGN	1210	554	656
うちMPO型	734 (60.7 %)	335 (60.5 %)	399 (60.7 %)
うちPR-3型	48 (4.0 %)	21 (3.8 %)	27 (4.3 %)
うち抗GBM型	66 (5.5 %)	27 (4.9 %)	39 (5.4 %)
一次性NS	2730	1141	1,589
うちMCNS	844 (30.9 %)	379 (33.2 %)	465 (29.2 %)
うちMN	802 (29.4 %)	371 (32.5 %)	431 (27.0 %)
うちFSGS	250 (9.2 %)	114 (10.0 %)	136 (8.3 %)
うちMPGN	123 (4.5 %)	54 (4.7 %)	69 (4.3 %)
うちC3腎症	14	8	6
PKD	1209	557	652
うちARPKD	156	62	94
HSPN	423	222	201
一次性MPGN(非NS)	71	26	45
うちC3腎症	18	11	7
腎生検数	10771	5498	5,273

表2 日腎研修施設(教育責任者の所属する診療科)における、2019年度の腎臓領域指定難病新規受療患者数、腎生検数の推計(2020年度調査)

		2020年度調査		
		2019年度(2019.4.1~2020.3.31分)		
	新規受療患者数	新規受療患者数推計		
	回答264施設分 (日腎研修施設 教育責任者 所属診療科)(A)	日腎研修施設 全病床数に対する 回答施設の病床カバー率 に基づく推計 ¹⁾	アンケート回収率 に基づく推計 ²⁾	
IgAN	3005	7104	—	8013
RPGN	1210	2861	—	3227
一次性NS	2730	6454	—	7280
うち一次性MPGN	123	291	—	328
PKD	1209	2858	—	3224
HSPN	423	1000	—	1128
一次性MPGN(非NS)	71	168	—	189
腎生検数	10771	25463	—	28723

1)日腎研修施設分の新規受療患者数(A)÷日腎研修施設総病床数に占める回答施設総病床数のカバー率(=0.423)

2)日腎研修施設分の新規受療患者数(A)÷日腎研修施設のアンケート回収率(=0.375)

別表 アンケート回答施設・診療科(264診療科)

立正佼成会附属成成病院	腎臓内科	埼玉医科大学病院	腎臓内科	福岡市立こども病院	腎臓内科
国立成育医療研究センター	腎臓リウマチ膠原病科	国立病院機構まつもと医療センター	内科	長崎大学病院	腎臓内科
新渡戸記念中野総合病院	腎臓内科	中東連総合医療センター	腎臓内科	国立病院機構北海道医療センター	腎臓内科
静岡済生会総合病院	腎臓内科	市立三好中央病院	腎臓内科	琉球大学病院	第3内科
市立大津市民病院	内科	創和会しらい病院	内科	奈良県立医科大学附属病院	腎臓内科
新潟大学医学部総合病院	腎・膠原病内科	愛仁会 井上病院	内科	常滑市民病院	腎臓内科
山梨大学医学部附属病院	第3内科	水戸済生会総合病院	腎臓内科	尚賢会高知高須病院	腎臓内科
石心会埼玉石心会病院	腎臓内科	明和会 中道総合病院	腎臓・リウマチ科	蒲郡市民病院	内科
浅ノ川総合病院	腎臓内科	熊本大学病院	腎臓内科	恵仁会三愛病院	泌尿器科
兵庫県立こども病院	腎臓内科	労働者健康安全機構東京労災病院	腎臓内科	那覇市立病院	腎臓・リウマチ科
地域医療機能推進機構 東京高輪病院	腎臓内科	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	小児腎臓科	秋田大学医学部附属病院	血液・腎臓・膠原病内科
国立病院機構横浜医療センター	腎臓内科	松和会池上総合病院	腎臓内科	公立八女総合病院	腎臓内科
春日井市民病院	腎臓内科	国立病院機構浜田医療センター	腎臓内科	愛媛大学医学部附属病院	腎臓高血圧内科
神奈川県立こども医療センター	腎臓内科	長野市民病院	腎臓内科	三井記念病院	腎臓内科
深仁会手稲深仁会病院	腎臓内科	労働者健康安全機構山陰労災病院	腎臓内科	公立昭和病院	腎臓内科
石巻赤十字病院	腎臓内科	りんくう総合医療センター	腎臓内科	三成会新百合ヶ丘総合病院	腎臓内科
東京都立大塚病院	内科	誠仁会 みはま病院	泌尿器科	王子総合病院	循環器内科
紀南病院	腎臓内科	社団博友会金沢西病院	内科	金沢医科大学病院	腎臓内科
総合病院庄原赤十字病院	腎臓内科	東北大学病院	腎・高血圧・内分泌科	埼玉医科大学総合医療センター	腎・高血圧内科
原泌尿器科腎内科	腎臓内科	鳥取大学医学部附属病院	腎臓内科	筑波大学附属病院	腎臓内科
大和市民病院	腎臓内科	兵庫医科大学病院	腎・透析科	虎の門病院分院	腎センター内科
足利赤十字病院	腎臓内科	労働者健康安全機構神戸労災病院	腎臓内科	広島大学病院	腎臓内科
地域医療機能推進機構横浜中央病院	腎臓・人工透析内科	三樹会病院	泌尿器科	山形市立病院済生館	腎臓内科
鹿児島大学病院	腎臓内科	康仁会 西の京病院	内科	国立病院機構金沢医療センター	腎・膠原病内科
伊那中央病院	腎臓内科	横浜市立大学附属病院	腎臓・高血圧内科	大阪府済生会吹田病院	腎臓内科
修賢会藤崎病院	腎臓内科	虎の門病院	腎センター内科	名古屋市立大学病院	腎臓内科
奈良県総合医療センター	腎臓内科	医療法人福西会 福西会病院	腎臓内科	名古屋市立西部医療センター	腎臓・透析内科
東京医科歯科大学医学部附属病院	腎臓内科	山口県済生会山口総合病院	腎臓内科	岡山市立総合医療センター 岡山市立市民病院	腎臓内科
徳島大学病院	腎臓内科	川崎市立川崎病院	腎臓内科	東京慈恵会医科大学	腎臓高血圧内科
新潟県立新潟田病院	内科	東京慈恵会医科大学附属柏病院	腎臓・高血圧内科	東京都保健医療公社 多摩北部医療センター	腎臓内科
順天堂大学医学部附属浦安病院	腎・高血圧内科	南魚沼市民病院	内科	愛友会 上尾中央総合病院	腎臓内科
公立つるぎ病院	内科	青洲会 神立病院	腎臓内科	関西医科大学附属病院	腎臓内科
高知大学医学部附属病院	内科(内分泌代謝・腎臓)	聖隷浜松病院	腎臓内科	久留米大学病院	腎臓内科
東北小児病院	内科	磐田市立総合病院	腎臓内科	済生会長崎病院	腎臓内科
名古屋第一赤十字病院	腎臓内科	京都市立総合医療センター	腎臓内科	東京都立小児総合医療センター	腎臓内科
香川大学医学部附属病院	腎臓内科	堺市立総合医療センター	腎臓内科	JAとてつ総合医療センター	腎臓内科
香川済生会病院	腎臓内科	明理会イムス富士見総合病院	腎臓内科	青洲会福岡青洲会病院	腎臓内科
徳洲会東京西徳洲会病院	腎臓内科	九州大学病院	腎・高血圧・脳血管内科	社団法人田舎総合病院	腎臓内科
山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院	内科	下関市立市民病院	腎臓内科	公立玉名中央病院	腎臓内科
東京医科大学病院	腎臓内科	大分赤十字病院	腎臓内科	弘前中央病院	内科

あいち小児保健医療総合センター	腎臓科	JA新潟厚生連小千谷総合病院	内科	国立病院機構名古屋医療センター	腎臓内科
国際医療福祉大学成田病院	腎臓内科	松戸市立総合医療センター 小児医療センター	小児科	兵庫県立加古川医療センター	腎臓内科
大津赤十字病院	腎臓内科	ハナソニック健康保険組合松下記念病院	腎不全科	三思会東邦病院	腎臓透析内科
朝日大学病院	腎臓内科	JCHO諫早総合病院	内科	東京慈恵会医科大学附属第三病院	腎臓・高血圧内科
慶応義塾大学病院	腎臓内分泌代謝科	東京共済病院	腎臓高血圧内科	沖繩徳洲会湘南鎌倉総合病院	腎臓病総合医療センター
静岡県立こども病院	腎臓内科	東海大学医学部付属病院	腎内分泌代謝内科	淀川キリスト教病院	腎臓内科
公立学校共済組合 九州中央病院	腎臓内科	豊田会 刈谷豊田総合病院	腎内科	市立奈良病院	腎臓内科
労働者健康安全機構中部ろうさい病院	腎臓内科	若竹会 つくばセントラル病院	腎臓内科	近畿大学奈良病院	腎臓内科
大牟田市立病院	腎臓内科	大阪医科大学	腎臓内科	東京女子医科大学病院	腎臓内科
日本生命厚生会日本生命病院	腎臓内科	順天堂大学医学部附属練馬病院	腎・高血圧内科	大阪市立総合医療センター	腎臓・高血圧内科
滋賀医科大学医学部附属病院	腎臓内科	愛仁会明石医療センター	腎臓内科	福井県済生会病院	内科
NTT東日本関東病院	高血圧・腎臓内科	大分県厚生連鶴見病院	腎臓内科	市立長浜病院	腎臓内科
JCHO北海道病院	腎臓内科	大阪府赤十字病院	腎臓内科	順天堂大学医学部附属順天堂病院	腎臓代謝内科
新小山市民病院	腎臓内科	総合病院国保旭中央病院	腎臓内科	東京医科大学八王子医療センター	腎臓内科
加古川中央市民病院	腎臓内科	埼玉会 埼玉草加病院	腎臓内科	金沢大学附属病院	腎臓内科
大坪会東和病院	腎内科	財団慈恵会相澤病院	腎臓内科	市立札幌病院	腎臓内科
大崎市民病院	腎臓・内分泌科	佐賀大学医学部	腎臓内科	国立病院機構長崎医療センター	腎臓内科
近森会 近森病院	腎臓内科	藤枝市立総合病院	腎臓内科	聖隷佐倉市民病院	腎臓内科
北海道大学病院	内科 II	公立松任石川中央病院	腎臓高血圧内科	竹村内科腎クリニック	腎臓内科
福井大学医学部附属病院	腎臓内科	沖繩徳洲会武蔵野徳洲会病院	腎臓内科	飯塚病院	腎臓内科
福岡赤十字病院	腎臓内科	永相会松山市民病院	腎臓内科	ときわ会 常盤病院	腎臓内科
名古屋大学医学部附属病院	腎臓内科	小牧市民病院	腎臓内科	自治医科大学	腎臓内科
大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	腎臓内科	岐阜県立多治見病院	腎臓・高血圧内科	中央内科クリニック	内科
大阪市立大学医学部附属病院	腎臓内科	康心会 湘南東部総合病院	腎臓内科	芳賀赤十字病院	内科
岩手医科大学医学部附属病院	腎・高血圧内科	JA新潟厚生連上越総合病院	内科	福岡県済生会八幡総合病院	腎センター
日本大学医学部附属板橋病院	内科学系 腎臓高血圧内分泌内科学科	JA佐野厚生連佐野厚生総合病院	内科	宮崎大学医学部附属病院	腎臓内科
寿楽会大野記念病院	腎臓内科	関西医科大学総合医療センター	循環器・腎・内分泌・代謝内科	田附属会医学研究所北野病院	腎臓内科
徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	腎臓内科	済生会滋賀泉病院	腎臓内科	群馬大学医学部附属病院	腎臓・リウマチ科
熊本赤十字病院	内科・小児科・泌尿器科	京都大学医学部附属病院	腎臓内科	県立広島病院	腎臓内科
東京都保健医療公社豊島病院	腎臓内科	日本医科大学付属病院	腎臓内科	聖マリアノ医療科大学病院	腎臓高血圧内科
洛和会 洛和会音羽記念病院	腎臓透析外科	島根大学医学部附属病院	腎臓内科	岩手県立中央病院	腎臓・リウマチ科
半田市立半田病院	腎臓内科	JR札幌病院	腎臓内科	石心会川崎幸病院	腎臓内科
川崎医科大学	腎臓・高血圧内科	藤沢市民病院	腎臓内科	河北医療財団河北総合病院	腎臓内科
旭川医科大学病院	第一内科	信州大学医学部附属病院	腎臓内科	東京都済生会中央病院	腎臓内科
愛生会 総合上飯田第一病院	腎臓内科	徳島赤十字病院	腎臓内科	杏林大学医学部付属病院	腎臓・リウマチ・膠原病内科
石川県立中央病院	腎臓内科・リウマチ科	地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター	腎臓透析科	仙台市立病院	内科
JA長野厚生連 南長野医療センター篠ノ井総合病院	腎臓内科	昭和大学藤が丘病院	内科(腎臓)	岡山済生会総合病院	内科
富山県立中央病院	腎臓・高血圧内科	総合病院 水島協同病院	腎内科	董仙会 恵寿総合病院	内科
前橋赤十字病院	リウマチ・腎臓内科	新潟県厚生連長岡中央総合病院	腎臓内科	新潟市社会事業協会 信楽園病院	腎臓内科
公立学校共済組合 東海中央病院	腎臓内科	鳥取県立中央病院	腎臓内科	衆済会 増子記念病院	腎臓内科
富山赤十字病院	内科	洛和会首羽病院	腎臓内科	千葉大学医学部附属病院	腎臓内科
国際医療福祉大学熱海病院	腎臓内科	太田総合病院附属 太田西ノ内病院	腎臓内科	大阪府立母子保健総合医療センター	腎・代謝内科
三重大学医学部附属病院	腎臓内科	川島会川島病院	腎臓科	東京大学医学部附属病院	腎臓内分泌内科
国立病院機構信州上田医療センター	腎臓内科	奈良県西和医療センター	腎臓内科	藤田医科大学病院	腎臓内科
国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院	腎臓内科	東邦大学医療センター大橋病院	腎臓内科	東京北医療センター	小児科
愛知医科大学病院	腎臓・リウマチ膠原病内科	岡崎市民病院	腎臓内科	帝京大学医学部付属病院	内科
山口赤十字病院	内科	京都保健会 京都民医連中央病院	腎臓内科	地域医療機能推進機構 仙台病院	腎臓疾患臨床研究センター
国家公務員共済組合連合会 大手前病院	腎臓内科				

腎臓センター・腎臓内科・血液浄化療法室

(続く)
(順不同)